

憲法特講 I

科目ナンバリング PUL-201

選択 2単位

鬼頭 誠

1. 授業の概要(ねらい)

日本国の基本法中の基本法である憲法は、国会議員が制定する法律とは異なり、主権者の国民に制定・改正する権利と義務があります。それを理解することに講義のねらいがあります。

日本国憲法は世界各国の憲法の中でも異例の長期間、つまり1947年に施行されて以来今日まで、73年間、細かな勘違いミスも含めて多くの不備欠陥があるにもかかわらず、国民的な怠慢により、一言半句も直されずにきました。そこに用いられている日本語は1946年当時の「現代語」で、現在は一般国民には読めない漢字等が1,000字以上も満載され、現代語・口語への改正が喫緊の課題なのに、六法を出版する編集者の便宜的書き換えにとどまったままです。

修正・改正がなされない最大の原因は、憲法制定権力者である国民に主権者意識が希薄なことでしょう。講義を通じて、受講者にはその現状を体感し、毎回、改正案の試作もしてもらいたいと考えています。

憲法は、国会議員が制定する民法や刑法などの法律とは大きく異なります。憲法は「国民投票」で、つまり、わたしたち国民の判断で改正されます。したがって、国会議員でもない普通の国民であっても、全103か条の憲法各条には目を通し、大まかでもその内容を知っていることが望まれます。一般職の公務員、警察官・消防官・自衛官の試験でも頻出する憲法の問題。就活・試験に役立つ知識を培うことも念頭に置きながら進めます。

憲法1では、「憲法制定にいたった過程」と、第40条まで、つまり「天皇」「戦争の放棄」「国民の権利及び義務」を主に勉強します。

授業は毎回録音録画され、履修登録した人は講義終了翌日から学期末まで、ポータルサイト(LMS=学習管理ソフト)で視聴することが可能です。

2. 授業の到達目標

- ① 入門的であり、かつ、発展的な講義内容の理解。
- ② 主権者としての意識が向上する。

3. 成績評価の方法および基準

授業内総合評価(発言、レポート等)50%と期末試験50%

4. 教科書・参考文献

教科書

読売新聞憲法問題研究会編 電子書籍『初学者が分かる解説日本国憲法』(2019年 読売電子書籍用テキスト)毎回LMSで配信します。 読売新聞東京本社

参考文献

松浦一夫ほか編著 『憲法概説』(2017年)3,000円+税 成文堂

戸部信喜著・高橋和之補訂 『憲法 第七版』(2019年)3,200円+税 岩波書店

西修著 『世界の憲法を知らう』(2016年)1,620円 海竜社

5. 準備学修の内容

LMS配信のプリントを中心に、授業のあったその日のうちに習ったことを確認しておきます。復習が中心ですが予習もすれば興味は大いに高まります。この積み重ねを着実に実行しておけば、期末試験は余裕で臨めます。

6. その他履修上の注意事項

シラバスは目安で、適宜変更することがあります。近年まで政治・外交・憲法担当の新聞記者でしたので、日々の新聞報道を活用した授業を心がけます。

授業中の行動はすべて就活に直結すると考えて、礼儀正しく、建設的、現実直視で授業に臨みましょう。

7. 授業内容

- 【第1回】 憲法前史
- 【第2回】 第1章天皇(女性の皇位継承)
- 【第3回】 第2章戦争の放棄(集団的自衛権)
- 【第4回】 人権総論
- 【第5回】 国籍と外国人(外国人参政権)
- 【第6回】 公共の福祉(非常事態の際の人権)
- 【第7回】 法の下での平等(被害者の権利)
- 【第8回】 信教の自由(首相の靖国神社参拝)
- 【第9回】 表現の自由、学問の自由(報道の自由)
- 【第10回】 生存権(平和的生存権)
- 【第11回】 経済的自由・義務
- 【第12回】 社会権(公務員の労働基本権)
- 【第13回】 人身の自由(死刑)
- 【第14回】 おさらいと改正試作
- 【第15回】 おさらいと授業内試験